

授業科目名	治療援助論	担当教員	◎鶴沢淳子、有家香
必修	開講年次：2年前期	単位：1単位	授業形態：演習 30時間

【授業概要】

生活援助技術に続いて、看護技術（投薬、注射、導尿など）、検査に関する看護技術について学ぶ。エビデンスに基づいた看護実践、クリティカルシンキング、安全性の確保についての重要性を強調しながら、学ぶ機会が与えられる。

【授業目的・目標】

1. 薬物治療における看護師の役割と、安全で効果的な薬物療法に関する知識と技術を習得する。
2. 診察の意義と目的を把握し、診察時における看護師の役割、知識、技術を習得する。
3. 検査の意義と目的、主な検査の援助方法を学び、クライアントの教育と不安の軽減や安全性を守る技術を習得する。
4. 治療や処置に伴う無菌操作を習得する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

[01] 治療をうける患者の看護	(鶴沢)
[02] 感染予防	(鶴沢)
[03] 演習：滅菌物の取り扱い1 滅菌物の準備	(鶴沢・有家)
[04] 演習：滅菌物の取り扱い2 滅菌物の取り扱いの実際	(鶴沢・有家)
[05] 検査をうける患者の看護	(鶴沢)
[06] 演習：一時的導尿	(鶴沢・有家)
[07] 演習：採血	(鶴沢・有家)
[08] 技術試験（一時的導尿）	(鶴沢・有家)
[09] 呼吸管理をうける患者の看護	(鶴沢)
[10] 演習：一時的吸引・酸素ボンベの取り扱い	(鶴沢・有家)
[11] 薬物療法をうける患者の看護	(鶴沢)
[12] 演習：筋肉内注射	(鶴沢・有家)
[13] 演習：皮下注射	(鶴沢・有家)
[14] 演習：点滴静脈内注射	(鶴沢・有家)
[15] 課題演習	(鶴沢・有家)

【教科書】

志自岐康子他編(2017)ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術, メディカ出版

【参考書】

1. 竹尾恵子監修(2014)看護技術プラクティス第3版, Gakken
 2. 医療情報科学研究所編集 (2013) 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版, 株式会社メディックメディア
 3. 有田清子他 著 (2017) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ, 第17版, 医学書院.
 4. 深井喜代子編集 (2017) 新体系看護学 11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ, メヂカルフレンド社.
 5. 深井喜代子編集 (2017) 新体系看護学 12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メヂカルフレンド社
- *その他講義中に適宜提示

【評価方法・評価基準】

筆記試験 (60%)、技術試験 (20%)、課題レポート (10%)、講義時間内小テスト (10%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業前に提示された事前課題を行うこと。

事後学習：授業で使用した資料をもとに学習した内容の復習と課題の記述を行うこと。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

各演習で提出した課題レポートについては、教員のコメントを入れ、授業終了後に返却する。

【備考】